



## 京都市内から初めて 松くい虫に強いアカマツ品種を開発 — 古都 京都のアカマツ景観の再生に向けて —

### ポイント

- ・ 松くい虫に強いアカマツ（抵抗性アカマツ）10品種を開発
- ・ 地元産のアカマツを活用した景観の再生に貢献

### 概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場では、京都市と連携して、松くい虫（マツノザイセンチュウ<sup>\*1</sup>）に強いアカマツ（抵抗性アカマツ）10品種を、京都産（太平洋側の地域）のものとして初めて開発しました。これにより、地元産のアカマツを活用した京都の景観再生への貢献が期待されます。

### 開発した品種と開発までの経緯

松くい虫に強いアカマツとして「マツノザイセンチュウ抵抗性 京都（金閣寺）アカマツ 22号」（参考1）ほか9品種を開発しました。

京都市（風致保全課）と連携して、金閣寺周辺の松枯れ被害を受けている松林において、健全な個体として残っているものを抵抗性候補木（参考2）として選定し、球果を採取して、その種子から苗木を育成しました。

これらの苗木にマツノザイセンチュウ<sup>\*1</sup>を接種し、その後の生存率<sup>\*2</sup>及び健全率<sup>\*3</sup>が一定の基準を超えたものを、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ品種として開発しました。

### 開発の意義と今後の活用

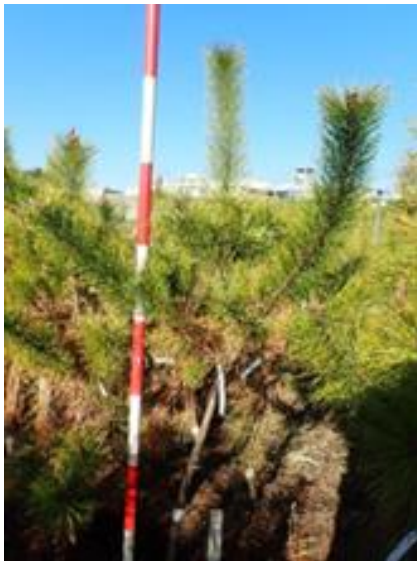
これまで太平洋側の地域において開発された抵抗性アカマツ品種は、選抜地が限られており、特に日本古来の里山景観の保全が重要となっている京都市においては、地元産の抵抗性アカマツ品種の開発が求められてきました。

今回の品種開発により、京都という地域性に配慮したアカマツの抵抗性種苗の供給が可能となります。今回開発された抵抗性アカマツ品種は、今後、これらを使った採種園<sup>\*4</sup>の造成や抵抗性種苗の生産を通して、京都地域のアカマツ林の再生に貢献していくことが期待されます。

関西育種場では、これからも健全な松林の保全に向けて、地域のニーズをくみ取りながら、抵抗性アカマツ品種の開発に取り組んでまいります。

## 参考資料（図、表、写真）

参考1 マツノザイセンチュウ抵抗性  
京都（金閣寺）アカマツ22号



参考2 松枯れ被害林分で生き  
残った抵抗性候補木



## 用語解説

- ※1. マツノザイセンチュウ：体長 1mm 程の線虫で、マツノマダラカミキリの成虫の媒介によってマツに侵入（感染）、増殖し、マツ枯れの原因とされています。
- ※2. 生存率：調査本数のうち、健全な苗及び部分的に被害を受けているが生存している苗の占める割合。
- ※3. 健全率：調査本数のうち、健全な苗の占める割合。
- ※4. 採種園：苗木の生産に必要な種子を採取するために設けられた樹木園。

## お問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場  
事業責任者：育 種 課 課 長 山田浩雄  
育 種 課 研 究 室 長 三浦真弘  
主任 研究員 岩泉正和  
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋

住所：岡山県勝田郡勝央町植月中 1043  
Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

本資料は、京都府政記者クラブ、京都市政記者クラブに配布しています。